

くらた病院に夏季福祉体験に行ってきました！

令和4年10月5日



どのような実習をして何を感じたのか

1年

私は父と姉が看護師をしており、医療の仕事に興味がありました。医療系の仕事を色々調べましたが想像が出来ず悩んでいました。そんな中、看護体験ができることになり、たくさん学びました。

私のイメージでは医療従事者といったら医者や看護師、薬剤師などしか思い浮かびませんでした。しかし、くらた病院では栄養士の方やリハビリの方など色々な人がいて病院は成り立っているんだと初めて分かりました。他にも食事の量や硬さが一人ひとり違うことに驚きました。実際に患者さんが食べているご飯をミキサーにかけて食べることが出来ました。第一に思ったことは、思ったよりも味があることです。病院食と言ったら薄いイメージがあったので、驚きました。また、リハビリの様子を見させていただいた時に、声をかけながら患者さんを良く見ながら動いていて、凄いなと思いました。

私は、今回の看護体験を通してたくさんのことを学ぶことが出来ました。将来医療の仕事を目指す上でとても貴重な経験になったと思います。

ありがとうございました。

1年

私は、両親が鍼灸師をしているというのもあり前から看護について興味があったので今回、看護体験に参加させていただきました。

実際、看護体験をするまでは、看護の仕事について、「機械的」に介助などを行ったり、医師の手伝いをするイメージしか思い浮かびませんでした。しかし、意外と患者さんとフレンドリーに話しながらケアされていて、どの看護師さんもマスクをしていてもわかるくらいの笑顔で対応をされていて明るい印象を受けました。また、さまざまな職種を見学することができ、初めて見る機材や普段入れないような所を見たりして、新しく多くのことを学ぶことが出来たと思います。

手を洗う事の難しさを実感しました。今までこれで大丈夫と思っても、ブラックライトに当ててみると、爪や手首がピカピカ光っていて細かい所まで手を洗えていなかったことに気がつきまし

た。日頃の手洗いの重要性が身にしみました。

食事補助では、患者さんによって、症状もそれぞれで、食事の硬さとか、飲みやすいようにトロミお茶などがあるなんて今まで知らなかったし、ミキサー食でも栄養を考えながら美味しく作ることはとても大変だと感じました。

そして、看護師の中でも分野があることを知り、またレントゲン技師や調査技師など様々な職種を知ることができたので、ますます看護師という職業に興味が湧きました。

将来、今回の看護師体験を少しでも活かせたらいいなと思います。とても貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

2年

看護体験をしようと思ったきっかけは、看護師さんの仕事について実際に体験をし、楽しいことや大変なこと、やりがいについて知りたいと思ったからだ。看護師さんたちが普段どういった活動をしているのかについても深く知りたかったので、看護体験を試みることにした。

看護体験で学んだことは、看護師さんの仕事だけでなく患者さん側の体験もさせていただく機会があり、看護について身をもって知ることができた。ミキサー食のアジフライを食べたことが印象に残ったことだった。ミキサー食とは、飲み込みの弱い患者さんが食べる液体状の食事で、くらのた病院では本物のアジフライをミキサーにかけるので風味や味わいは同じものだろう。「健康が一番」という言葉の意味を改めて認識する機会だった。

また、看護師さんだけでなく、薬剤師さんやレントゲン技師さん、医療ソーシャルワーカーさんの話を聞く機会があった。理学療法士さんは足が少し不自由な患者さんがリハビリを通して歩けるようになったり、成長を共に感じ喜びを共有することで自分の仕事に誇りが持てる、やりがいを感じられる瞬間だと仰っていた。

今回の看護体験を通して、私も将来自分の仕事に誇りが持てるような人になりたいと思った。看護師さんたちは常に患者さんへも気を配らなければならない、私の想像以上に忙しい仕事なんだと経験できた。それでも、自分の仕事に生きがいを持って働く姿がとてもかっこよくて憧れた。私も将来、悩むことや辛いことがあっても、それでも自分の仕事に誇りが持てるような人になりたい。

2年

くらのた病院インターシップを受けて

- くらのた病院は、主に透析を受けている高齢の患者さんが多く、水分や食事の制限や食べやすいように改善するのが大変になってくる。
- 健康な人とは違うご飯を食べるため、不味いと感じ食事を拒否する人もいるため声がけをしてしっかり食事を取ってもらうことが大切。
- 入院している患者さんは今の時期さらに家族と会えず寂しい思いをしている。
- お風呂が好きでも入院している人数が多いため1週間に2回程度しか入れない。
- 車椅子やストレッチャーに乗る時も黙ったままだと怖い、これらがストレスにならないためにも、リラックスするためにも、声がけが大切。
- 看護師、理学療法士、医師、薬剤師、放射線技師…など沢山の医療従事者がいてそれぞれ仕事があるけれどお互いの仕事を理解し、協力し合うことが大切。

2年

私は今回普段体験出来ないことを学べて、自分のこれからの人生に役立つと思いました。

看護師は入院患者様のお世話や夜間勤務などがあり大変な仕事ですが、患者様から「今日もありがとう」「あなたがいると安心」などの言葉を頂くと、『やって良かったな』と感じる瞬間があり達成感があるので良い仕事だと思いました。

看護体験を1日行い、看護師がどのような仕事かを大まかに知ることが出来ました。今の気持ちは、看護師は忙しくて大変な仕事だと思っています。しかし、本日お世話になった先生2人方に看護師になった理由を聞いてみると「お母さんが看護師でかっこよくてなった」「ナースキャップに憧れたため」と理由は様々なことが分かりました。ここから、看護学校を卒業して国家試験に合格すれば誰でもなれるが、入った後も努力とやる気が必要だと分かりました。

患者さんの些細な変化を捉えるために、「今日の体調はどうか?」「夜はよく眠れたのか?」「薬はしっかり内服出来ているか?」というように、質問をよくして話をしっかり聞いていきたいです。

3年

私は今回、夏季福祉体験でくらす病院に行き、一日看護体験をさせていただきました。私の将来の夢は看護師になることで実際に看護師の方はどのような仕事をし、どのような思いでいるのかを知りたいという思いから、今回一日看護体験に参加させていただきました。

今回の体験ではコロナウイルスの影響で患者さんと直接関わることはできませんでしたが、バイタルや血糖値を測ったり車いす、ストレッチャーなどに乗ったりいろいろなことを学びました。そこで、私が一番大切だと思ったことは声掛けをすることです。病院では患者さんは不安でいっぱいだと思いますが、声掛けやお話をしながらすることで少しはその気持ちは和らぐと実際に体験して感じました。

車いすを体験した時には、押している人は自分が思っているよりゆっくり押さないに乗っている人は怖いと感じると思いました。また、普段エレベーターに乗った際どうして鏡がついているのか不思議に思っていたのですが、一人でエレベーターに乗って降りるとき後ろが見えないので見えるようにするためのものだとわかりました。何気なく生活をしている中にはいろいろな工夫がされていることがわかりました。

私が看護師になろうと思ったきっかけは、祖父が入院した時、看護師さんが来ると不安そうだった祖父の顔が笑顔になり看護師さんの存在というものはとても大きいのだと思ったからです。そして、亡くなってからも私たち家族を気にしてくれて時々家にまで来てくれます。患者さんがいっぱいいるのにもかかわらず、一人一人家族のように接してくれているのだと思います。だから私も家族のように患者さん一人一人に視線を合わせ、常に患者さん思いに、そして絶対に目をそむけることなく最後まで支えられるような看護師になりたいと思いました。

3年

私は、くらす病院で夏季福祉体験をさせていただきました。くらす病院は、約70床の病院で透析の患者さんが主に入院しています。病院の設備は、透析室の他にも外来や薬局、リハビリテーション科、ヘリポートもありました。

体験実習では、まずはじめに手洗いをしました。私は、普段から手洗いはしっかりやっている方だと思っていました。しかし、よごれがあると光るクリームを塗り、ライトを当てて見ると、汚れが落ちていませんでした。特に指と指の間や爪の周りが全然洗えていなくて驚きました。

次にバイタルサイン測定をしました。バイタルサインとは、心拍数・呼吸・血圧・体温の4項目のことで、患者の生命に関する最も基本的な情報です。血圧測定では、自分で測るのは初めてだったのでとても緊張しましたが、看護師さんたちが丁寧に優しく教えてくださったので上手く出来ました。マンシャットをふくらませるときは、思っていた以上に力が必要でした。血糖値測定では、初めは怖くて自分からやりたいと言えませんでした。メンバーの1人が勇気を振り絞ってやってくれたので、自分もやりますと言えました。初めて血糖値を測る患者さんたちもきっと怖い思いををすると思うので、その時は今回の体験を活かし、安心して任せてもらえる看護師になりたいと思いました。

次に、車椅子・ストレッチャーを操作しました。車椅子では、自分が普段歩いている速度で車椅子を押すととても速く感じ、とても怖い思いをしました。車椅子を自分で操作するときには、かなり力が必要で、少し動かすだけなのにとても疲れました。また、まっすぐ行こうとしても曲がってしまったり、角を曲がる時は上手く曲がれませんでした。ストレッチャーでは、頭を前にして動くとても怖かったです。曲がる時や止まる時、動き出す時に声かけがないとても怖く、声かけがどれほど大切なものなのかを学びました。

今回、この看護体験を通して、声かけなどの一見小さなことのように見えることがとても大切なことだと学びました。この体験を忘れずに、将来患者さんが安心して看護を受けられるような看護師になりたいと思いました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

3年

私の将来の夢は小児科の看護師になることです。以前は、私は子供が好きで保育園の先生になりたいと思っていましたが、患者さんをサポートする看護師さんが輝いている姿を見て、看護師という職業に就きたいと思いました。その第一歩が今回の夏季福祉体験です。

体験させてもらった病院は透析患者が多く、高齢者の方が半分以上いました。コロナの影響で患者さんとお話をする事ができませんでしたが、お昼ご飯の時に挨拶をさせていただきました。患者さんの方々が、私たちを歓迎し、とても心が温かい気持ちになりました。

病院で体験させてもらったのは抗原検査、車椅子、ストレッチャー、病院食、バイタル、血糖値などです。私が一番、心に残っているのは車椅子です。患者さんと看護師さんの立場になって体験させて頂きました。押す側、乗る側も両方怖かったです。けれど、患者さんと看護師さんの気持ちが少しでも理解出来たのではないかと思います。

最後に、看護師さんとお話する事が出来ました。看護師のお仕事はどのようなものか、働いていて辛くなることはあるかなどいろんな質問をさせて頂きました。私はコミュニケーションが苦手なのでどう患者さんに話しかけているのかを質問しました。家族のように思えば話しやすいと言っていました。家族だと思えば話しかけると緊張せず話すことができ、仲良くなれると言いました。

看護師は、患者さんとお話しながら健康状態を確認していて、両立しながらやることはすごいなと思いました。今回、夏季福祉体験をさせていただいた結果、今まで見られていなかったことをたくさん見て、学ぶことが出来ました。改めて、看護師はカッコいいと思いました。学んだことを生かし、将来の夢をめざしていきたいと思います。

So good.
So cool,
Soya!

